



自遊塾の楽しい学び、 豊かな出会い

県民カレッジ学長 荒井 克博

古代ギリシャの哲学者アリストテレスは、「人間は生まれながらにして知ることを欲している」と述べています。知的欲求は食欲・性欲等と並ぶくらい本源的な欲求であるとのこと。

それは、幼な子が親や周囲の大人に「これは何？これは何故？」と問い続けるような、それが何に役立つのか、自分にどのような利益をもたらすのかという実用性・実利性を離れた「とにかく知りたいから知りたいのだ」としか言いようのない欲求だということです。このような原初的な知的欲求が人を突き動かす、今日の人間社会や文化を成立させてきたと言えるでしょう。

何かの「ためにする」あるいは「しなければならぬ」という学びは、時として苦痛を感じさせることもあります。ただただ知りたいという人間の本源的な欲求に根ざす学びは、素直で純粋なものであり、それだけに喜びや感動も大きなものがあります。自遊塾での学びの楽しさはまさにこうしたことに起因しているのではないのでしょうか。

平成7年に16講座でスタートした自遊塾はいまや65講座を数え来年度はさらに増える見込みです。講座のメニューも年々多彩なものとなり、県民の皆さんの選択肢が各段に広がったことも喜ばしいことです。

また、自遊塾は県民教授と塾生がともに主役であり、純真無垢な知的欲求によって集い、互いに切磋琢磨し成長し続ける師弟同行の姿がそこに体現されています。

いろんな人との出会いがあり、つながりが生れています。人生の幸せの大きな部分を占めるのは、よき人との出会いです。『論語』に「益者三友」という言葉がありますが、正直な友、誠実な友、見聞の広い友は、人生に益をもたらしてくれるといえます。自遊塾に集う皆さんは互いの人生を実り豊かなものにしてくれる多くの「益者三友」に出会っていらつしやることと思います。

情報化が進む今日、インターネットを通せば夥しい情報や知識をいともたやすく入手できますが、顔と顔を合わせ、生の声や実際の体験を通じた自遊塾での楽しい学びと豊かな出会いには、何にも代えがたい深さを感じます。

皆様の日々の孜孜とした学習活動に心から敬意を表し、今後の一層のご活躍、ご発展をお祈り申し上げます。

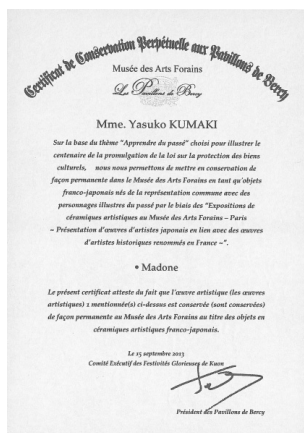
News

県民教授

熊木保子さんの 藤平面造形作品

「マドンナ」

フランス・パリのベル
シー美術館に永久収蔵
されました。



つばやきは風に垂って

マイポエム綴る&詠む

桑田今日子

「火の用心」

「何もかも新しくやり直したいの」
「違う、大事なものは積み重ねだよ」

偶然耳にした海外ドラマのセリフが
ピンで刺した昆虫のように
じぶんのなかの動いている時を止めた
背負うものが重くなると
いつもごつそり降ろしたきたから
ゼ口ばかりが重なって
軽い

うすつぺらな紙が
台所の壁いつぱいに刺してある
明日の買い物のメモ
衣料品じゅんこのサービスケット
公民館清掃日程表
ゴミ収集カレンダー
中年女の苦い後悔のため息の切れはし
火の用心

「猛暑」

柏倉 君男

プールの帰り道 隣にひまわり畑
不思議だ どこにも見えない
萎びた葉陰に一斉に顔をうずめている
畑に立つ 乾いた砂埃
雨よはやく降ってくれ

肌をヒリヒリさせる日ざし
ああ！

「ごめんなさい」

嘉渡比都美

母の背をながす
二回りも小さくなった
ピンク色の丸い後姿

母の爪を切る
初めて知った
形が整っていることを

母の髪をすく
白髪が多くなったね
全身を老いがおおっている

理性より感情が先
子供優先で生きてきた

”世話をかけるね”

母の言葉に胸がいっぱい

心で詫げる
親不孝な娘でごめんなさい

”ただいま……”

母が帰った居間
私の声だけが沈んでいく

「男の子」

梅田 満

パンをたべていた
ほしそうにしている男の子
パンをあげる
落としてしまう
ちよつと小さくしてまたあげる
喜んで食べている

何かいいことした気がする
ばかだな
それでいいんだよ

「秋まつり」

田村 義秋

昨夜来の雨が降りやまない
ビニールシートで完全武装
子どもも大人もビニールコート準備万端
神主さんのお払いを待ちながら空を仰ぐ
神のご加護か雲間から太陽が
さあ町内巡行へ出発だ
みこし持ちは子供

ドンドンドンピッピッピーワッショイワッショイ

門門でみこし揚げ
競って太鼓叩き

揚げたみこしに駆け寄る ぶら下がる
子ども 子ども 子ども

あとは直らいだ
子どもはジューズ 大人はビール

焼きそばをほうばる
汗ふきふき 笑顔笑顔笑顔
まつりはいいな！

「射る」

かとう しげお

的まで三十メートル 矢を放つ
汗との闘い タオルが離せない
合わせるサイトと的のセンター 汗で涙目に
一連の動作でスムーズに射るアーチェリー
射るスタイルを身につける これに明け暮れる
成績向上に 一にも二にも鍛えたい心身を

「できるかな」

尾山 敦子

朝には
大嫌いなものを少なくして
大嫌いな人のいいところ見つけて
大嫌いなことにもチャレンジして

夕べには

大好きなものに囲まれて
大好きな人と語らって
大好きなことに夢中になって

少しずつ少しずつ

心を軽くして
少しずつ少しずつ
愛をふやしていこう生きて行こう

さよならする朝
精一杯がんばったよねって
自分にごほうびあげたいもの

塾生の声

「先人の言葉を

ヒントにして」
クールにスマートに

塾生 土佐恵利子

人類の為すこと 古今東西 老若男女 古来より大差なく 現に今だ世界各地で紛争が繰り返されていきます。故に現代人は先人に学ぶ必要があります。いえ学ばなくてはなりません。座したまま知識を得る事が出来る講座に飛びついた次第です。偏りがちな自分の読書傾向を離れ有意義な今後の指標となる言葉を沢山手に入れました。プリントの行間を補うエピソードも先生の下調べのお蔭で楽しく拝聴。さてさて一体いくつの言葉が我が老脳に残りますか。悩み多きお若い世代の方々にも有意義也。

クールIIかつこい
スマートII賢い

……講座名格好良すぎませんか？

木曾義仲の生涯

義仲と越中・武将・
公家・僧・女たち

を受講して

塾生 大澤 晴美

以前に巴御前サミットに参加したので、今回の講師の村澤氏に興味もあり、木曾義仲の講座に出ました。伝承され守られるべきコト、モノがあると考え、越中と義仲と言えは中世の郷土史も学べるので良いと思いました。

富山市から倶利伽羅合戦地まで、皆のマイカーで一々見学できたので、新経験だった先生は史跡のみならず、歴史、伝承にも詳細な説明をされる、私には大変有意義だった。卓越した博識に加え、職歴の恩恵なのか、全国各地に友人知人がおられるようだ。

一番感心したのは実証的な所だ。もし可能なら義仲の出生地を訪ねてみたいと思う。埼玉県嵐山町だが、木曾町、岐阜県可児市、京都、大津へも行き見学したい。出会う人達と「輪」「絆」を広く深く結び、生涯学習を楽しみたいと願い、今年も参加いたします。

皆さんも日常の中で、もやもやを感じる部分があると思います。相談することでもないけれど、自分の中で引っかかっている問題。

自分を導く

セルフコーチングを受講して

塾生 山下 由貴

私は初めて自遊塾の講座を受講しました。緊張して上手くできなかったこともありますが、それでも続けられたのは、この講座がトレーニングでありリラックスできる時間であったこと、話を聴き、聴いてもらえる場でもあったからです。

問題に対して自分を知り、変えることで問題の見方を変える。受講後は自分が変わり問題もそう深刻なことではないのだと、勇気をもてる講座でした。

講座紹介

熱心な姿勢に感激

県民教授 萩野 良一

自遊塾で「朗読を楽しもう」を講じて、5年目になります。

毎年強く感じるがあります。それは、受講者の皆さんがとても熱心で、真剣に取り組んでくださることです。今年の修了証の交付率は90パーセントでした。

また、受講者の中の数の方から、「朗読のボランティアをしてみたいのですが」という声を聞かせて頂き、とても嬉しく思いました。

さらに現実に、朗読のボランティアとしての活動をしていらっしゃる方がおられることは、この講座を続けていることに對する、何よりのほうびと喜んでいきます。



山に学ぶ・山は
夢と冒険とロマン

県民教授 平田 清志

今年は「今も続く女人禁制の山」から初め「エヴェレストに登った女たち」と女性と登山について考えました。「山の文学を読む」はディラン峰に挑む北杜夫の『白きたおやかな峰』。最後は「劔岳・幻の滝登攀史」。「来年、幻の滝を見に行こう！」で終わりました。

講座中、旧立山道の石仏の話から「立山開山縁起」の話が出ました。それによると、佐伯有頼が、逃げた白鷹を追って玉瀝岩屋に達し、阿弥陀如来が出現し、お告げにより立山を開山したという。

来年は「立山開山縁起」に従い、実践編「有頼柳から旧立山道を歩き立山へ」を開講します。



有頼柳 (魚津)

第25回県民カレッジ学遊祭特集

ステージ発表

さわやかな空の下で

歌いましょう

県民教授 重松 秀子

学び・交流・繋ぐ輪と和

県民教授 長谷川弘子

あの青春を再び!!
健康・音楽について!!

県民教授 水須 忠

(ホール)

ミニ講座 (ホールロビー)

干支絵付け体験

土人形のぬくもりに触れ、
自分でもつくってみよう

県民教授 古川 圭子

「美しいと山の自然と一体となり」を目的とする戸外での講座だが、学遊祭のステージ発表が励みとなり、楽しい中にも心地よい緊張感がある。今回はどんな曲にしようかと皆さん意欲的だ。中でも、昨年度来の新しい県民の歌「ふるさとの空」を使命に燃え堂々と歌って下さるから嬉しい限りだ。今年度は最高に人数が増えお世話される人の嬉しい悲鳴が聞こえてきた。練習後のお茶タイム、年一回のランチタイムが、人の心を結びつけ、のびやかな声となる。街角で私達の歌声が聞こえたら、立ち止まって一緒に歌いましょう。



学遊祭は、塾生教授共に学んだ集大成の発表の場です。皆、限られた時間を有効に、熱心に取り組んでの『はつらつ弦楽合奏』のステージは各々の努力の実りでした。心の中では多くの方に来場頂きたいとの想いは、演奏者も展示者も同じです。あまり興味が無い分野でも、出番後すぐ帰らないで、見分を広くする様に心掛けたいとの想いです。異分野に触れることで新しいアイデアが浮かび、新しい楽しい企画も生まれる事もあります。本年度は八月に、水須先生の企画「音を楽しむ会」に参加させて頂き、アンコールの声に感激した塾生、又塾生自主企画の家族に『聴いて聴いてのサロンコンサート』の予定があります。講座が開け、本と当に良かったなあと。携ってくださる方々に、心から感謝を申し上げます。



老いて学は若さを保つ！のスローガンで今年の曲への思いは「故郷の山、川、海に感謝しよう」で塾生さんは全員敬老会のメンバー。今年から城川先生に指揮をお願いしてギター伴奏の野村先生と自分と13人で5曲を演奏、曲目紹介を含めて出入り10分間で行う。最後は会場の皆さんと「故郷」を合唱して貰いました。来年も元気で学んだことを仲間間の前で発表する機会を作りたいものです。60歳以上の皆さん、仲間と一緒に気軽に学びましょう。お待ちしています。

昨年に引き続き、学遊祭で、干支の絵付け体験コーナーを設けました。今年は、皆さんに参加していただきやすいように、2階のロビーで、会場を設定し、ホールに出入りしていただいている方々にも、気軽に、声をかけていただきました。

今年の干支である午（うま）の素焼きを数種類、用意し、自由に絵付けを楽しんでいただきます。絵付け作業は、1時間ほどで、仕上げられる方が多いのですが、今年は、熱心に、2、3種類の午の組み合わせを考えられる方もいらして、時間オーバー、午後になっても、盛況でした。

正月用に毎年恒例の干支の土人形を楽しみにしてくださる方も、いらつしやいます。十二支が揃うまで、頑張りましたね。



展示発表

学遊祭展示発表について

県民教授 中川 佳子

「自然美の転写アート」講座の作品発表は、毎年学遊祭の時に展示発表の機会をいただきました。

作品の飾り付けは、すべて塾生の皆様にお願いしています。

毎年、カリキュラムを組む時に作品展示のレイアウトも考慮して作成していますが、塾生の皆様のセンスとアイデアで、作品の一つ一つが素敵で世界に一つだけの作品が出来て素晴らしい展示発表だったと思います。

塾生の皆様に感謝しています。ありがとうございました。

生活を楽しむする物作り

県民教授 野崎タツ子

毎日の生活の中に変化を求めて、この自遊塾を始めました。作品展示をするのは三回目で、今回の展示場所が変更になったことで、少し戸惑いが有りましたが、面積的には変わらなかったで、何とか飾り付けることが出来ました。ホールの出入口といつこと沢山の人が通られるが、サーッと見てゆかれる程度で、じつ

くりと見る人が少なかったように思う。

私達のグループは第四土曜日の午後に時間を取っているのですが、急用が入ったりで欠席する人も多いです。次の時に前回の分まで作るという方法を取ったりはしていて、全作品を仕上げるようにしています。

「押し花」には違い無いのですが、小物作りには、色が変わり易いので、密封する物以外は、着色した押し花を使っています。着色と言ってもフアンタジー液に（着色したい色）切り衣を入れて色が変わるのを待ちます。あとは押し花にします。ユキヤナギ、コデマリ、ヒメウツギ等白い花が主役です。

春夏秋冬、自然が豊かな富山で押し花を楽しむことは、私の生きがいです。

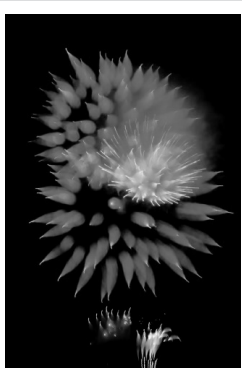


写真で綴る絶景「富山」の特等席めぐりV

当講座の名物メニュー「作品合評会」

県民教授 松本 慎一

塾生みなさんが一同に集まった中で、自分の作品について作品の狙いや表現意図などを発表し、それがみなさんにどう伝わったかを皆さんからコメントを聞き、またほかの人の作品を見て自分の意見を述べるなど塾生の力になる講座名物メニュー「合評会」。年に3〜4回開いています。



「花火」大谷 和照さん

花火の補習講座の成果。花火をカラーでお見せできないのが残念。



「散居村の夕焼け」黒田 昌子さん

散居村の夕けの水田とカメラマンたちのシルエット、この時にしか撮れないとれない一年で一番良い時の絶景ポイントです。



「ヨーイヤサー、ヨーイヤサー」山田 国男さん

夜にもかかわらず、津沢夜高祭り特有の赤を適正な露出で捉えたのと、隣手二人の黒いシルエットとの対比がうまい。ピントもしっかりしている。



「仮面舞踏会」堀田 昌子さん

チングルマの風車？を逆光できれいに撮っています。魔法の国の舞踏会に見立てたのはさすがです。目のつけところが素晴らしい。

(ホールロビー)

新講座紹介

「指笛」を使って名曲を演奏し、鳥の鳴き声にも挑戦しよう

野中 健二

山野に自然散策に入ったときなど、指笛を吹けばいくつかの種類の鳥が鳴き返すなど反応してくれるのを楽しんでいたが、それが高じて楽器がなくても楽譜が読めなくても歌えれば曲を奏でることができこの手法で、曲目を演奏する面白さに目覚めた。今まで他人の演奏する音楽を聴いていたものが、上手下手を抜けば自分の音楽として耳に届いてくる。又その副産物として、腹式呼吸による腹筋の鍛錬、便秘の解消、ストレスの発散などの効用の他曲を思い通りに吹けたときの達成感や、スキルアップの楽しさまた大小の災害時における警笛としての役目などの利点を合わせ持ち、いつでもどこでも自分の為の一生のスキルとして活用していただきたいと思います

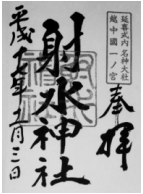


富山の魅力（くすり、遺跡、ご朱印）

加賀谷辰夫

富山の魅力は自然や食など多くあります。私たちが当たり前と思つていことは、他の地域の方からは魅力です。富山県民だからこそ知っておきたい。そして、郷土への誇りと愛着を抱き、熱い想いを持つて伝えられたらいいです。何もないちゃというおもてなしとお茶はありません。豊かな心は、人との交わりが無言のうちに心の養いに大きな働きをすると感じています。

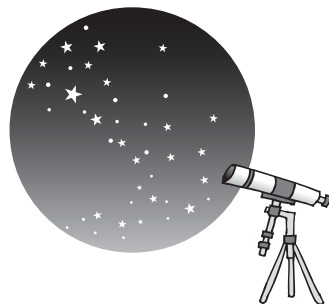
昨年末に県民カレッジの皆さんとご縁があり、自遊塾初登場です。6回の講座では、くすり、遺跡、ご朱印を取り上げますが、人それぞれの見方があります。気軽に参加し、自分ならではの富山の魅力や価値観に気づき、再認識し、魅力等を伝えられるように一緒に頑張りましょう。



おとなのための星空案内

平野 都子

ふと見上げた空に星、星、星。
「あの星、なんだろっ」
なんて思っても、大人になるとなかなか教わるチャンスはありませんよね。でも、たつたひとつでも、名前がわかって自分でさがせる星があると、夜空はぐんと身近になります。そしてちよつとうれしくなります。さらにもう一歩進んで、ちよつと「科学」してみると、宇宙と自分とのつながりを感じて、落ち込んだ時に少し励まされたりもします。
星や宇宙に興味はあるけれど、どうしていいかわからないという方のための、天文入門講座です。「夜空を見上げる楽しみ」を、日々の生活に加えてみませんか。



人生にPowerを呼び込もう!!

岡崎 京子・林 恵美



毎日の生活の中に「幸せの素」って実はたくさんあるんです。それをしっかりとキャッチできる人は、毎日楽しくてワクワク、ウキウキ。幸せをキャッチするためには、受け取るリーダーが大事。そう、みずみずしい感性が必要。そのために五感があります。人は、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚のすべてを使って毎日を感じています。私たちの講座は毎回楽しみながらその五感に磨きをかけ、性能アップをねらいます。磨かれてピカピカの感覚で捉える世界は、今まで感じたことのないようなきらきら輝く素晴らしいものになるでしょう。「どうしてそんなに貴方は幸せいっぱいなの?」と聞かれて「五感を活性化させてるから」とにつっこき笑つ貴方を想像してみてください。

新講座紹介



「みんなで子育て！」

秦 美代子

「子どもを育てる」ということはこれまで家族の中での私事でした。子どもが産まれたからといって特別親としての学習をしなくても、自分の周りには親や祖父母、兄弟、そして親戚の人など相談相手や手伝いをしてくれる人がいました。

しかし今では核家族が増え、人のつながりが希薄になってしまいました。情報がいろんなところから洪水のように流れてくる中で、「大変な思いをしているのは自分だけ。」のように思ってしまうこともあると思います。

でも、子どもと接していて楽しいこと、嬉しかったこと：一杯あると思います。それをお集まりの皆さんと分け合い、不安や悩みはお互いの成長の糧にしてゆきましょう。

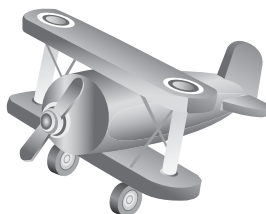
ラジコン愛好家は生涯現役だから死ぬ時まで飛行機を作るか飛ばす

澤田 章治

ラジコン飛行機を趣味とする人にとつて、コツコツと機体をつくるのが好きだという人もいれば、アクロバティックな技を覚えて飛ばすことが楽しいという人もいます。

ラジコン飛行機には実に広い知識が必要です。知識をひとつひとつ習得していきながら、実際に体験して、理解を深めていく。いくらでも深く楽しめます。

また、ラジコンを長く続けていくためには仲間と楽しく過ごすことがとても大切だと思います。ラジコンを通じて知り合った仲間と楽しく話をしたり、自由に飛ばしたりできる人間関係になる配慮も必要です。



「食べることは、命をつなぐ」

尾崎 明美

日々の生活の中で、一番楽しみな時間は、食事ではないでしょうか？私の娘は幼少の頃、突然食事をすることが出来なくなり、何故食事が出来ないのか？悩んだり、考えたりしました。

この事から、体のために良い物、健康になることの大切さと、自然循環の中に私達は生きているということを感じました。心や、体の健康に大きな働きをしめる食事について、知るべき事を知り選ぶ知恵を身につけ、食の楽しさを積み重ねて行きましょう。



郷土芸能「南京玉すだれ」

岩田裕美子



「あつ、さて、さて、さては南京玉すだれ〜」と言った口上と共に、すだれ状の竹細工で色々な造形をする大道芸は日本中知らない人はいない。発祥地が富山県玉ケ山である事を知っている人は、富山県の中でもあまりいません。平成14年に「日本南京玉すだれ協会」により、旧平村が「玉すだれのふるさとである」と認定を受け、富山県の郷土芸能としての価値をみい出しました。私達はこの玉すだれで、富山県の代表的なものを造形して、富山県をアピールしていきたいと思えます。江戸時代の庶民文化として親しまれ、子供達の遊び道具として愛された玉すだれを、私達も触れ親しみ、皆で楽しもうではありませんか。そして、伝承していけたらと思っています。

自遊塾・県民教授交流会模様

- 1 開催日時
平成25年7月28日(日)
13時30分～16時30分
- 2 開催場所
砺波散居村ミュージアム・交流館
- 3 参加者
10名
- 4 開催内容(メモ)
(1)ミニ講座
・健康に関する情報
檜谷さん
(100歳までの目標が決まっ
ていてびっくり)
・山の「女人禁制」を考える
平田さん
(いろんな意見があるが、デ
ジタル思考でない柔軟性が求
められているのかも)
(2)自己紹介兼講座に関する思い
など発表タイム
(それぞれの自遊塾講座に対
する思いを聞いて参考になり
ました。)
(講座のネーミングも重要)
(3)その他(周知、意見交換)
・20周年が来年予定
・県民教授同士間の情報交換のや
り方などについて意見交換

事務局からのお知らせ

26年度の自遊塾は、
72講座で実施予定です。

あなたも好奇心と探求心で参加し
てみませんか

心と体の健康	22講座
歴史・文学	16講座
ものづくり	11講座
くらし・食	4講座
自然環境	3講座
情報映像	3講座
音楽	8講座
ふるさと学習	5講座

自遊塾申込み手順

- 1 受講講座を決める(申込書に2
講座まで記入できます)
- 2 申込書を提出(結果通知用の82
円切手が必要です)
※提出は県民カレッジ本部、地区
センターの窓口まで。郵送の場
合は本部まで。(締切:4/18)
結果通知発送(4月下旬)
- 3 結果通知を持参して自遊塾負担
金を県民カレッジに支払います(1
講座につき500円)
- 4 ※支払いは県民カレッジ本部、地
区センターの窓口まで。郵送の
場合は、定額小為替を同封して
本部まで。
- 5 講座毎に開始日が異なります。
申込み要項の日程に従い参加くだ
さい。
- 6 県民教授より集合場所等の詳細
連絡がある場合もあります。

県民教授リレーコメント

「心きらり」

ー学びへの一歩、国語塾ー

県民教授 坂田 陽子

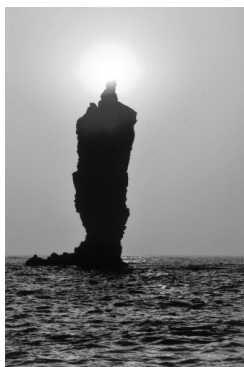
「わたしたち受講生は、先生から
教わり学んだお陰で「何かを始める
のに年齢なんか関係ありません。」
の言葉通り、大きく成長できたよう
な気がしております。「幸せ水曜日
の国語塾」の日は楽しみでした・・
「最終講座の日。美しい花束と共に
いただいた過分のメッセージ。宝物
である。」

「もうこの年では」「難しいこと
は」ではなく、今こそ小さな一歩を
踏み出す勇気をもってほしい。その
一歩がどんなに大きな一歩になるこ
とか。今の自分ではない、何か違う
自分を感じたい、創りたい人が集ま
る学びのオアシス。その思いで開設
した。塾生のみなさんと共に歩んだ
この一年間は、わたしにとっても、
大きな一歩となった。

小さな一歩が、大きな一歩に

松本慎一さん 優秀賞受賞

県民教授 松本慎一さんが全国公募
第17回総合写真展にて優秀賞受賞。



県民教授会からのお知らせ

自遊塾20周年記念パーティ

1 日時

平成26年6月14日(土)
14時～16時

2 会場

ボルファートとやま

3 対象

26年度県民教授および塾生、
自遊塾に関わったことのある
方々など



編集後記

25年度は全65講座開講。編集会議
で企画を練り、その中から幾人かの
教授に原稿依頼しました。当然、依
頼しなかった講座は多くあります。
希望企画の提言及び講座紹介を募り
ます。

さて次年度は自遊塾開講20周年。
20年の間に広報紙『戸端通信』の
有り様はかなり変わったと思われま
す。前年度はそれについて活潑な討
論がありました。今年度はありま
せんでした。次年度への課題としま
す。

(平田)